

長尾和宏さんが映画に

ドラマ 痛くない死に方 けったいな町医者 ドキュメンタリー



試写会で挨拶する長尾和宏さん(左)と高橋伴明監督

るシーンで幕が閉じられるが、奥さん・弟・長男が見守るなかで、長尾さんが懸命に心臓マッサージをする。「呼吸が止まってしまった心臓は動いていますよ」と奥さんに告げると、「たまたま奥さんが涙ぐむ。」

撮影を許可した家族と長尾さんとの信頼関係が並大抵のものではないことが痛いほどよく分かる。

試写会の挨拶で長尾さんは「この作品を大病院の医師、医学生、医師を目指す学生さん達にぜひとも見てもらいたい」と述べた。

「痛くない死に方」の関西地区ロードショーは3月5日から、パークスシネマ・テアトル梅田・京都シネマ・イオンシネマ京都堀川、神戸国際松竹・塚口サロンで。

「けったいな町医者」の関西地区ロードショーは2月26日から、パークスシネマ・京都シネマ・神戸国際松竹・塚口サロンで。

(小川秀人)

令和3年2月15日(月)

東 大 阪

1965年に勃発した阪神淡路大震災を機に、長尾和宏さん(62)は大病院と決別して尼崎市に個人病院を開業、いわゆる町医者になった。

尼崎市内に立派なクリニックを構え、多くの医師、看護師をスタッフとしてスタンバイさせているが、長尾さんは「医療とは往診である」を基本理念として日常を行動している。

様々な取材を受けるなかで町医者としての信念を発信し、学会のシンポジウムや数多くの著作物の中で、「平穩死・尊厳死」に関する説得力のある意見を述べている。

長尾さんは「生きることは、笑うこと、食べることに、歩むことに尽きる」と話す。ふた

んはもの静かな医師だが、とにかく迫力のある優しい人だ。

最新まで自宅で過ごしたい、痛くない死に方がしたい希望の患者をなんと2500人看取ったという。

「痛くない死に方」(高橋伴明監督)は長尾さんの著作「痛くない死に方」「痛い住宅医」(どちらもブックマックス)を映画化したドラマ。前半の家庭内

介護の状況描写には他人ごとでない辛さを感じた。後半の奥田瑛二医師(長尾さんの役柄)の台詞「大病院は臓器だけを診ている。町医

は進んでいく。映像の最終章は商店街の豆腐屋さんを看取

を好きになれ」はまさに町医者の叫びだ。

小頭役・宇崎竜童さんは「この作品を大病院の医師、医学生、医師を目指す学生さん達にぜひとも見てもらいたい」と述べた。

「痛くない死に方」の関西地区ロードショーは3月5日から、パークスシネマ・テアトル梅田・京都シネマ・イオンシネマ京都堀川、神戸国際松竹・塚口サロンで。

「けったいな町医者」の関西地区ロードショーは2月26日から、パークスシネマ・京都シネマ・神戸国際松竹・塚口サロンで。

映像の最終章は商店街の豆腐屋さんを看取